

【初回授精・移植までのコストカット】

はじめに

皆さんこんにちは！！

最近シカが非常に多くなってきましたね。一般的にエゾシカは春くらいに分娩が多いらしいので、これからさらに小鹿が増えて来そうです。

今の診療車に乗り換える前は何度か轢いてしまったことがあるのですが、もし今の診療車で轢いてしまったら恐らく僕も同じ目にあわされるので気を付けて運転します！

今回のテーマ

今回のテーマは発情同期についてです。

内容としては、僕が現在取り組んでいるプリッド（腔内留置型のプロゲステロン、エストラジオール製剤）とダブルオブシンクとの初回授精の受胎率比較の経過報告になります。

プリッドの販売・製造元であるあすかアニマル様と一昨年から和牛の移植を積極的に行っているある農場さんのご協力を得て、初回移植におけるダブルオブシンクとプリッドの12日間留置の受胎率比較を現在進行しています。

この取り組みに至った経緯としては、コストカットと初回授精のプログラム化をチャレンジしやすくするためです。

現在酪農場に関するあらゆる資材・飼料が高騰しているため、繁殖の面からコストカットにアプローチできないかという考えが発端でした。また、後述しますがプリッドの12日間留置での発情同期化はダブルオブシンクに比べて注射の回数が半分程のため、人手不足や時間不足で「ダブルオブシンクに興味はあるけど打ち忘れが不安」という農家さんでも実践しやすいのでは？と思い始めてみました。

プリッドとは？

先にプリッドの説明をさせていただきます。



プリッドは簡単に言ってしまうとシダーやイージーブリードなどの腔内留置型のプロゲステロン徐放性剤にエストラジオール（オバホルやE2と呼ばれています）が入ったカプセルをくっつけているアイテムです。

最大の特徴は、エストラジオールの作用によって今卵巣にある卵を閉鎖退行させて新しい卵胞ウェーブを立ち上げさせた後にプロゲステロンによる黄体形成作用をもたらすことです。

簡単にいうと排卵を目的とするGnRHの投与は「**GnRHに反応する卵胞がないと意味がない**」ことに比べプリッドに入っているエストラジオールは「**卵胞を閉鎖退行させる**」ので対象牛のそもそもの発情周期をある程度無視できることが最大の特徴です。

つまり、2回のオブシンクを行うことで「現在の発情周期」をある程度無視して発情同期を行うことが目的のダブルオブシンクに近い作用を起こせることとなります。

そこで今回は「本当に周期不問で発情同期をプリッドでできるのか？」を確認するためダブルオブシンクとプリッドを同時期に産次不問で仕掛けて取っているデータの経過報告をさせていただきます。



Total Herd Management Service

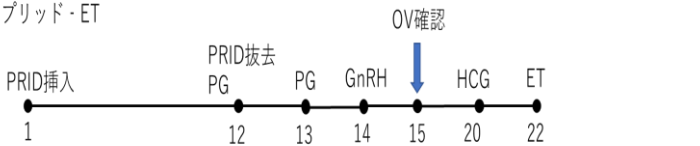
ホルモン処置の紹介

それでは、現在行っているダブルオブシンクとプリッドの12日間留置それぞれのホルモン処置手順とメリットデメリットについて紹介いたします。

ダブルオブシンク-ET



プリッド・ET



こんな感じで現在取り組んでいます。

備考ですが、最後に GnRH を注射した後は**定時ではなく排卵確認**まで追跡して HCG と ET を行っています。また、プリッド抜去後の PG と GnRH の注射はメーカーさんからは不要だといわれましたがより確実に同期を起こしたいため僕が独断で組んでいます。

プリッドを用いたプログラムでのメリットとして

- ・期間の短縮（ダブルオブシンクに比べて2週間ほど短い）
- ・手間の省略（注射回数はおよそ半分）
- ・コストカット（ダブルオブシンクに比べて500～700円ほど安い 搾乳牛150頭規模で年間130頭程初回授精をプリッドに切り替えた場合和牛卵2個買えるくらいの差額が出ます）

デメリットとしては

- ・プリッドが抜けることが稀にある
- ・注射に比べると最初のプリッドの挿入が手間

こんな感じでしょうか。実践して下さってる農家さんから頂いたご意見としては

- ・プリッドの方が期間も短く作業性がいい
- ・ET中止がやや目立つ（後述します）

ということを行っています。

受胎率の比較

では本題の受胎率の比較に入ります

	受胎率	実施頭数	移植頭数	受胎頭数	中止頭数
ダブルオブシンク	20%	8頭	5頭	1頭	2頭
プリッド ET	43%	10頭	7頭	3頭	3頭
自然発情	41%	20頭	17頭	7頭	3頭

2022/10月～2023/2月まで

これが現在妊娠鑑定まで終わっている牛たちのデータです。注意して頂きたいのは、**短期間のためまだまだ母数が少なく、受胎率そのものがデータとして頼りないことです。**

注目して頂きたいのはプリッド ET もダブルオブシンク ET と同じくらいしっかりと発情同期ができています（移植中止が同じくらいの頭数）ということです。両方とも移植中止の理由は

- ・黄体が形成されず卵胞嚢腫になっている
- ・黄体壁が薄く、黄体としての機能が未熟な可能性がある

とのことで ET を中止しています。「30%の確率で中止になるなら意味ないじゃん！！」と言われてしまいそうですが、同時期にダブルオブシンクや自然発情からの ET 中止もあったため大目に見てください、、、

最終的にはダブルオブシンクとプリッドによる ET をそれぞれ合計で30頭ずつほどになるまで比較を行い、それから改めてデータを農家さんやメーカーさんと吟味する予定です。

データが揃い次第また M 情報で共有させて頂きますのでそれまで楽しみに！！



Total Herd Management Service